

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 7月号

2015年7月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：高澤 信哉（ハートライフ病院）

## 全国大会参加報告

### 「時代をつらぬく医療ソーシャルワークの実践」京都2015 ～一人ひとりが尊ばれる、排除することのない社会を求めて～

大浜第二病院 仲村千晶

5月28日～30日まで京都市で行われました日本医療社会福祉協会全国大会・日本医療社会事業学会に参加させて頂きました。

同志社大学大学院教授で経済学者の浜矩子氏による基調講演「排除することのない分かち合いの社会を求めて」がありました。先生の第一印象として小柄でカラフルで日本人離れした美的感覚をお持ちの先生という印象でした。壇上に上がり話し始めたときたん息つく間もなくノンストップに話始め、パワフルで存在感の大きさに圧倒されました。講演では、まず今の国政を鋭い視点で説き、現代の流れに激しく警鐘を鳴らし、選ばれし強いものをより強くする制度政策、頑張るものが報われるのが公助になっていくと解説、今の国政で進むと見えるはずのものが見えなくなり、考えてはいけないことを考えてしまうだろうと力説していました。先生は本来、公助とは頑張りたいくても頑張れる環境にない人のためのもので、頑張れるところにいけるよう支えるのが公助と話されました。その中で経済学者の視点から排除することのない分かち合いの社会を創るには私たちSWはどうすればいいのかについて、まず一つ目は“原点回帰すること”何のための経済活動があるのか。経済学者のアダム・スミスの道徳感情論を紐解き、人間を幸せにするものでなければならぬと説いてくださいました。そして二つ目は“バランス感覚”。孔子の[心が欲するところに従えども矩を踰えず]を引用し、自由振る舞っても社会規範、行動倫理を超えず、人道を外れないこと。三つ目は“3つの道具”か細い声に傾ける耳（傾聴する耳）、涙する目（人の痛みを思いを馳せる目）、差し伸べる手（痛みをのぶちに懸命になって救おうとする手）ということでした。心が熱くなり、スタンディングオベーションをしたい気持ちになりました。

全国大会期間中、会長の樋口さん、事務局長の當銘さんと行動を共にさせて頂き、たくさんの先輩SWや都道府県の協会会長さんと話す機会があり「私、場違い！」と思い恐縮しましたが、京都市民の生活実態調査や夜の“実態調査”を過ごし、京都の美しい風景、綺麗でおいしい料理、甘いカクテルで緊張もほぐれ、寝るのも惜しみたいような充実した全国大会初参加でした！今度は発表者として参加できるよう頑張りたいと思いました。

#### CONTENTS

全国大会参加報告	1
定例会参加報告	2
めだかの学校参加報告	2～3
新入会員紹介	3
理事会議事録	3～5
研修部からのお知らせ	6
コラム	7

### 第3回いのちとこころとくらしをサポートする在宅医療研修会に参加して

中部徳洲会病院 與儀 篤

6月20日(土) 沖縄県総合福祉センターにて、第3回いのちとこころとくらしをサポートする在宅医療研修会に参加させて頂きました。副題が『利用者様が望む最期を叶えるために』～小規模だからできる看取り～となっており、内容は小規模多機能型施設での在宅看取りについての事例報告、講演、ワークショップというものでした。小規模多機能型居宅介護事業所くくば原の横川さんからの事例報告は、利用者との出会いから1時間後には事業所への受け入れと退院が決まり、その後も揺れる本人の気持ちに寄り添いながら、看取る場所を探していったというケースでした。小規模多機能型居宅介護事業所かじまやあぬ花の福里さんの事例では、家族、介護・医療スタッフのチームワークの重要性が感じとれました。また、在宅医が看取りの現場にいるケア(介護)スタッフの重要性をしっかりと理解しており、医療は一步引いたところにいるような雰囲気がありました。ワークショップでは、小規模多機能施設の方から、やはり夜間の対応などの不安が強いというお話を伺いました。事業所の方針として看取りを受け入れているのでは無く、ケース毎に検討しているとの事です。NPO きづき事務局長の佐久川さんの講演での「弱さは強み」という言葉もとても印象的でした。事業所としての不安や弱点をしっかりと理解した上で、繰り返しカンファレンスを行ったり、研修などに参加したりする事で看取りの経過・結果がよりはっきりとイメージ出来るようになるのだそうです。実際に看取った後のグリーフケアという場では、家族を含め、各スタッフが(不安だった事を含め)思いを伝え合うのだそうです。そうすることで気持ちに整理がつき、看取りに対し自信が付くということでした。

これまで看取りやそれに近い方の支援をする事はあったのですが、在宅での様子を知る機会はありませんでした。各事業所の取り組みにはとても感動させられ、特に現場スタッフのこころの動きを学べた事は、大変良かったと思います。地域医療・介護に貢献できるよう、MSWとして求められる事を考えながら、今後の業務に取り組んでいきたいと思っています。



### めだかの学校参加報告

豊見城中央病院 東門麻里子

去った6月9日(火)、ハートライフクリニックにてめだかの学校が開催されました。

ご案内は定期的に頂いていたものの参加させていただくのは今回が初めてでした。豊見城中央病院に入職して3年目を迎え、相談業務に従事させていただくことになり、必要に駆られて慌てて参加したというのが正直なところです。

今回のめだかの学校のテーマは、『医療費負担軽減のために活用出来る制度』でした。参加させていただいてわかったのは、私が知らない医療費の名前が沢山存在することです。“公費”一つとってもすぐには覚えられないものではありませんし、もしかしたら当院で対象の患者様に会うことはないのかもしれないかもしれません。でも知識として持っておくべきだと感じました。

ハートライフ病院ソーシャルワーカーの高澤信哉さんの説明で、高額療養費、特定疾患公費負担制度、重度心身障害者医療費助成制度、自立支援医療、養育医療、ひとり親家庭等医療、小児慢性特定疾患治療研究事業、こども医療費助成制度、傷病手当、障害年金について詳しく教えていただきました。中でも特定疾患公費負担制度(難病130疾患のうち56疾患を特定疾患として医療費の一部または全額を

公費で負担する。申請窓口は保健所)の利用条件として『沖縄県と契約している医療機関』という項目があることを全く知らなかったので勉強不足を痛感しました。

その他に、参加者から沖縄協同病院の無料定額診療制度について、介護施設の高額介護合算療養費(介護保険と医療保険の自己負担額を合計し、基準額を超えた時に支給)についても教えていただきました。

受講者の感想として、“これからもアンテナを張り巡らせて相談業務に従事していきたい”という声があり、今後も医療、福祉、介護の制度が変わるたびに確認していく必要性を感じました。わからないことをわからないままに院内の担当部署へ委ねるのではなく、ある程度の知識を持って患者様をお迎えできるソーシャルワーカーでありたいと思います。



## 新入会員紹介

### 中頭病院 知花太賀

皆様初めまして。今年度より中頭病院医療相談室で勤務しております、知花太賀と申します。これまでは大阪のデイサービスにて勤務しており、医療機関での勤務は初めてという事もあり、日々勉強ではございますが、職種・部署問わず、先輩方の温かい御指導や激励の御言葉を頂きながら勤めております。

医療相談員として自覚を持ち、患者様・御家族様から信頼され、外来・入院と安心して医療サービスが受けられ、退院後も適切な制度・サービスが利用できるよう、他機関や地域と連携を図りながら支援させて頂きたいと思っております。

若輩ではございますが、一生懸命励みますので何卒宜しくお願い申し上げます。



## 平成27年6月運営委員会議事録

開催日時：2015（平成27）年6月15日（月）18：45～

出席者：樋口（司会）、島袋、伊禮、新垣、新城、當銘、安慶名、望月、香村、池間、奥平（書記）

研修部より：望月（ハートライフ病院）、池間（与那原中央病院）、香村（北中城若松病院）

■第3回いのちとこころとくらしをサポートする在宅医療研修会

日時：6月20日（土）15：00～17：00

場所：沖縄県総合福祉センター

テーマ：利用者様が望む最後を叶えるために～小規模だからできる看取り～

- 1部：講演「小規模多機能ホームでの看取りにおける人材育成」  
2部：ワークショップ「これから自分にできること・取り組めること」  
出席者：MSW21人（南部10人、中部10人、北部1人）、小規模37人

■第4回いのちとこころとくらしをサポートする在宅医療研修会

日時：7月11日（土）13：30～17：00

場所：名護学園 地域交流ホーム 和

テーマ：在宅ターミナルケアの支援の実際

～私らしい生活を選択（意志決定）する患者・家族を支援する方法を学ぶ～

（第1部）シンポジウム

シンポジスト：儀間真由美氏（北山病院 看護主任 緩和ケア認定看護師）（他3名）

（第2部）講演

講師：金城隆展氏（琉球大学医学部附属病院 地域医療部 臨床倫理士

（第3部）ケアカフェ

※こころのケア研究会共催

定員50人を予定（うち、包括支援センター20人、居宅介護支援事業所10人予定）

■めだかの放課後

日時：6月18日（木）19：00～21：00

場所：琉球大学

内容：研究とは！～基礎編～

講師：白井こころ氏（琉球大学大学院講師）

「研究とは～量的・質的研究の基礎編」（予定）

・MSW業務評価・ラダー

■めだかの学校

日時：7月14日（木）18：00～

場所：沖縄協同病院

内容：調整中

■MSW定例会

日時：9月19日（土）黒木先生 予定

■中部地区医師会医療連携推進会議 出席報告

日時：6月2日（火）19：00、参加：望月（ハートライフ病院）、泰（中頭病院）

1月のテーマ：ターミナル・ケアのお手伝いを予定。

■全国大会研修部会参加報告（當銘）：年1回の学生の研修・・・各県で学生向けの研修が可能か提案があった。現在は北海道・東京他計3地域のみ。



- 在宅医療人材育成委員会の研修（島袋）・・・9月5日（土）時間場所調整中。金城隆展先生によるグループワーク

#### 広報より：新城（小禄病院）

- ・ 広報紙・・・7月号担当：高澤さん（ハートライフ病院）
- ・ メーリングリストの導入検討

#### 社会活動部：

- ・ ソーシャルワーカーデーにイベント予定（県社会福祉士会が声かけしてボウリング大会？）

#### 事務局：當銘（大浜第一病院）

- 平成27年度沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会  
地域包括ケアをすすめるネットワークづくりセミナー  
テーマ：在宅医療・介護連携のあり方  
日時：平成27年6月24日（水）13:00～16:45  
※ 人選してMSW協会からも参加していく・・・6月18日締め切り、複数医療機関、10～15人、参加費1,000円。協会負担。
- 公的扶助研究全国セミナー沖縄大会  
後援承諾。11月27日（金）～29日（日）  
宜野湾市民会館、沖縄国際大学
- （お知らせ）平成27年度 第1回 病院医療ソーシャルワーカー研修会（全日病主催）  
7月8日、9日
- その他
  - ・ 大阪府協会より、ポスターいただく。各病院へ送付予定。
  - ・ 会長会報告（樋口）・・・全都道府県が加入した。大阪の藤田譲さんが会長会の会長に選出。日本協会会長は佐原さんから早坂さんへ。
  - ・ 沖縄県在宅医療連携体制推進委員会第6回在宅医療連携システムに係る小委員会（新垣）・・・フォーラムはほぼできあがり。次回6月29日（月）19:30～ 沖縄県医師会館
  - ・ 沖縄県在宅医療連携体制推進委員会 7月3日（金）19:30～21:00 薬剤師会館・・・樋口会長参加予定
  - ・ 九州大会は県協会から3～4題提出（佐賀県）
  - ・ 沖縄県保健医療財団の応募 6月30日 締め切り
  - ・ 平成30年度は九州大会を沖縄県での開催予定。今から少しずつ準備を。

次回理事会：7月21日（火）18:30～司会：新垣 書記：新城 連絡係：奥平

## 研修部からのお知らせ（7月の予定）

### 定例会

日時：平成27年7月11日（土）13：30～17：00

場所：名護学院（名護市字為又1015-1）

地域交流ホーム 和

※イオン名護店の近くです。

テーマ：『在宅ターミナルケアの支援の実際』

～私らしい生活を選択（意思決定）する患者・家族を支援する方法を学ぶ～

第1部 シンポジウム 13：40～14：40

シンポジウム「乳がんの親をもつ幼い子どもを中心とした家族支援」

～妻として母として家で過ごしたい！～

シンポジスト 儀間真由美氏（北山病院緩和ケア認定看護師）

伊佐真弓氏（なきじん指定居宅介護支援事業所ケアマネ）

城郁美氏（北部地区医師会病院MSW）

親川公勇氏（ご家族の立場から）

第2部 講演 14：50～15：50

「在宅医療を物語る」～人生の物語を共につむぐ医療を目指して～

講師：金城隆展氏（琉球大学医学部附属病院地域医療部臨床倫理士）

第3部 ケアカフェ（ワークショップ） 16：00～17：00

「テーマはアンケートにより当日発表します！」

事前に参加申し込みが必要です。

### めだかの放課後

日時：平成27年7月16日（木）19：00～21：00

場所：中頭病院 2階会議室（沖縄市知花6-25-5）

内容：①リーフレット作成について

②県民健康フェアについて

### めだかの学校

日時：平成27年7月14日（火）18：00～20：00

場所：沖縄協同病院 3階講堂

内容：訪問看護の役割について

訪問看護ステーションより講師の方を予定しています。



★コラム★  
～社会資源の豊富な彼～

S・T

経済的問題に対する支援で介入した N さん（59 歳男性）は、末期肝硬変 & 難治性腹水で月一ぐらいの頻度で入院してくる方です。

個人事務所を営んでいる彼ですが、今回の入院で主治医から、「今後は仕事を辞めて療養に専念したほうがいい。」と言われ、生活保護の申請をしたいとのことで相談がありました。

さっそくその日に面接。各種制度について説明しつつ話を聞いていくと、仕事は数年やっておらず、貯金は今回の入院費を払うと底が付くとのこと。生活保護に該当するかも…と思う私。

ところが、更に面接を進めていくと、彼の口から「妻が資産家の娘だよ（離婚協議中とのことだが…）」、「持っているマンションが 1200 万円で売れる予定があるんだよね（離婚したら妻に譲るとのことだが…）」……(^\_^)

次々と出てくるのは、お金があるのか無いのかよく分からなくなるエピソード。「とりあえず、身の回りを整理していく必要がありますね。」と話がまとまりかけたその時、彼は奥の手(?)を出したのです。「工作上、■■■■の知り合いが多いんだよ。そいつに生活保護の申請を手伝ってもらおうか。そいつ生活保護を何人も通してあげているんだよ。」……(^\_^)

直後、例の■■■■にその場で電話してアポ取りを始める彼。見てはいけないものを見ているような気がして、ドキドキする私。どうやら話はまとまったようで、生活保護の窓口に■■■■が同席して“お手伝い”してくれるとのこと。さらに、■■■■のスケジュールに合わせて退院も予定より早まりました。

■■■■の支援(?)によって、あっという間に話がまとまるのを目の当たりにし、支援者としての実力不足を痛感した次第です。

ただそんな私に対して、彼はとても感謝してくださったようで、退院前日に病室に行くときプレゼントをくれました。それは“知り合いの■■■■達の裏話”。私でも知っているような有名な■■■■の方々の裏話に思いのほか満足した私でした（笑）ちなみにこのプレゼントは、本にして出版すればボロ儲けできる程のネタらしいです（笑）

さらに、マンションを売った後は知人の家を間借りする予定で、今回の入院主治医も学生時代の同級生だそうです。私の MSW 史上、最も強力で豊富な社会資源を持った患者さんでした。

次回入院した時、カルテの保険情報がどうなっているか気になるところです…。

※ 隠した部分に入る言葉はご想像にお任せします！



## 編集後記

梅雨があっという間に去って、いよいよ夏の到来です！イベント尽くしで楽しみですが、暑いのが大嫌いな私は、梅雨並みのスピードで夏が去ってくれないかと願わんばかりです…。みなさん体調管理とビールの飲みすぎにはご注意ください！

今回、快く原稿を引き受けてくださった皆さん、ありがとうございました<(\_)>

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

